

平成25年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人格教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る ②進路観を掘り起こし、希望進路の実現を図る
③学校行事・部活動の充実を図る ④基本的な生活習慣の確立を図る

目指す学校づくりとして

1. 学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望する進路の実現を図る学校
2. 生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
3. 広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校

2 中期的目標

1 学び続ける力の育成

- (1) 学力の向上に取り組む
- (2) 指導力の向上に取り組む
- (3) 授業姿勢の改善に取り組む

2 問題解決力の育成

- (1) 大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- (2) より一層の生徒会執行部活性化に取り組む
- (3) 大高への帰属意識を高めることに取り組む
- (4) ルール遵守を基盤に学習集団育成に取り組む
- (5) 女子生徒指導のあり方追究に取り組む

3 選択する力の育成

- (1) 進路実現のための学習を乗り越えた学習に取り組む
- (2) 興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習に取り組む
- (3) 社会的・職業的に自立するための学習に取り組む

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成25年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <p>・肯定評価上位2項目</p> <p>A「様々な進路希望に対応できるよう、教育課程・教材は適切に整備されていると思いますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝66% 1年＝66% 2年＝60% 3年＝73%</p> <p>B「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に役立っていると思いますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝66% 1年＝63% 2年＝60% 3年＝75%</p> <p>・肯定評価下位2項目</p> <p>Y「学校行事が充実しており、行事について学校は様々な工夫や努力をしていると感じられますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝45% 1年＝52% 2年＝36% 3年＝50%</p> <p>Z「自分で立てた計画に沿って学習を進められるようになりましたか」 肯定評価の割合：全校生徒＝45% 1年＝43% 2年＝37% 3年＝56%</p> <p>○保護者（上記項目に対応）</p> <p>A 肯定評価の割合：全保護者＝69% 1年＝64% 2年＝68% 3年＝78%</p> <p>B 肯定評価の割合：全保護者＝58% 1年＝52% 2年＝56% 3年＝71%</p> <p>Y 肯定評価の割合：全保護者＝77% 1年＝77% 2年＝73% 3年＝80%</p> <p>Z 肯定評価の割合：全保護者＝45% 1年＝34% 2年＝42% 3年＝65%</p> <p>○教員（上記項目に対応）</p> <p>A 肯定評価の割合：全教員＝70%</p> <p>B 肯定評価の割合：全教員＝91%</p> <p>Y 肯定評価の割合：全教員＝70%</p> <p>Z 肯定評価の割合：全教員＝29%</p> <p>【分析】</p> <p>「生徒」「保護者」共に、大方の項目回答は学年が上がるごとに肯定評価増が見受けられることに対して、本校教育の浸透が徐々にではあるが進んでいるものと思われる。</p> <p>中期目標に掲げている各項目は、未達である。まずは、本校教育が等身大で評価をされるように保護者に対する広報活動の工夫が必要。本校の保護者会である「育友会」との連携を深めたい。</p> <p>全国的な課題でもある「意欲喚起・自律学習」は本校でも喫緊の課題であることは間違いない。その課題に真摯に取り組んでいる姿勢が教員のZ結果数値に表れている。「生徒・保護者」がそれぞれ求めているものを掴みながら、全教員が研鑽を積み重ねていき、実践を繰り返していきたい。</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪高校が相川に移転する前から住んでいる。生徒たちの様子を身近で見えてきたが、共学以降生徒の様子がよくなった。 ・外からだけでなく、実際に校舎内に入り生徒と接したとき、礼儀正しく前向きな生徒が本当に多いことに驚いた。 ・先生方のご努力の賜物。是非とも教育の中身を発信していただきたい。 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約95%（最終95.3%）の進路決定率、国公立を含めた難関私大合格者数30名超は、今後につながる結果だと思われる。 ・生徒の努力を先生が引き出していると思受けられるが、学年の成長に沿ったキャリア教育をより一層深化させていただきたい。 ・和太鼓部や創作ダンス部、吹奏楽部など地域貢献に感謝申し上げたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 学力の向上 ア 実力試験・模擬試験対策の充実 イ 補習・補講の充実 ウ 夏季学習合宿の充実 エ 夏期講座の充実 (2) 指導力の向上 ア 研修会の充実 (3) 授業姿勢改善	ア ターゲット模擬試験の設定 目標ゾーンの設定 1ヶ月前からキャンペーン実施 イ 各学年で計画・実行 成績上位者、成績不振者、実力対策 ウ タイムスケジュールの見直し 参加形態の見直し エ 無学年制を基本とし、教師が教えた内容を提起 ア 教師が共に学ぶ場の設定 ア 各学年で計画・実行 確認事項の徹底 イ 朝学習の活用	ア 具体的目標の提示 イ 定期的な実施 ウ 参加者の満足度 エ パラエティーに富む講座の確保と参加生徒数の増加 ア 学期最低1回の開催 ア 教師集団の連携 イ 状況にあった取り組み	・目標提示は全学年実施できた。結果ゾーンの上昇が見られた。ただし満足のいく結果ではない。 ・途切れることなく取り組みは継続した。学年やクラスの学習集団の核づくりに寄与できた。 ・全参加者177名(1年46名、2年47名、3年84名)が終始落ち着いた状態で活動できた。3年生の満足度が高く、他学年に大きな影響を与えた。 ・92講座、参加生徒延べ数923名の取り組みだった。やる気のスイッチを押すきっかけとして深化していきたい。 ・授業力向上を学期1回、ネットリテラシーの研修を1回行った。また、全教職員の研修として、授業評価の分析、学校評価の分析会を行い、日常の活動改善へつなげることが出来た。 ・全教室への掲示の際、担任からの思いをつたえることができた。ただし、非常勤講師との連携は未達である。 ・年間を通して、昨年度の2倍の取り組み内容となったことは創意工夫が進んだ結果だと評価できる。
2 問題解決力の育成	(1) 学校行事の充実 (2) 帰属意識の向上	ア 文化祭におけるクラス参加の継続 イ 体育祭における学年ミックス参加の継続 ア クラブ参加率の向上 イ 出席率98%のクラスづくり ウ 着こなし指導の継続実施	ア 工夫度の評価 イ 団長を中心とした活動 ア 文化系クラブの発展 イ 週単位でのブロック指導 ウ 節目を逃さない指導	・学年別に発表形態を設定し、部門別審査を新たに取り組んだ。内容の充実したものになった。 ・全校有志の活動が定着し、上級生のリーダー力が上がった。 ・男子は60%強、女子は50%弱の加入率にとどまった。ただし、文化系クラブの加入率は4.1%上昇した。 ・98%台を維持することで、授業中も安定した状態を保つことができることが浸透した。 ・節目節目による着こなし指導と同時に本校の制服に対する思いを教師から語る機会を持ったことで、次の指導ステージへ踏み込んだと感じている。
3 選択する力の育成	(1) 生涯学習の基盤づくり ・進路実現を乗り越えた学習 ・興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習 ・社会的・職業的に自立するための学習	ア 進路ガイダンスの重層化 イ 進路登録時期の変更 ウ 読書レポート	ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用 イ 前倒しの工夫 ウ 次のステージに繋げる取り組み	・本校教職員、卒業生、大学、専門学校、一般企業などと連携し、1年生では4回、2年生では3回、3年生では6回の活動を行なった。講師の評判も良く、継続が望まれる。 ・3年4月の登録を2年3月の登録に切り替えた。このことによって、春休みの面談が有効活用でき、取り組みを加速することができた。 ・3年生の総仕上げとして、2学期に行った。関係する資料を読破し、将来の行き方を見据えてレポートにする。そしてクラス代表1名が全体の前で発表した。緊張感を持った真摯な姿には成長を感じることができた。